

令和4年度 秋の公開

## 国語科学習指導案

指導者 北信教育事務所 指導主事 古旗 明 先生  
共同研究者 信州大学学術研究院教育学系 准教授 八木 雄一郎 先生  
日 時 令和4年10月3日(月)  
授業学級 1年E組(41名)  
授業会場 武道場  
単元名 「筆者の主張に対する共感度—『不便』の価値を見つめ直す」  
授業者 佐々木 清花

### I 本校全体の研究の概要

- 1 令和4年度 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」・・・・・・・・・・国語1
- 2 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え・・・・・・・・国語1
- 3 令和4年度 研究の全体構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・国語2

### II 国語科の研究

- 1 国語科の研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・国語3
- 2 教科としての研究の重点1と研究の重点2の受け止め・・・・・・・・国語3
- 3 研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・国語3

### III 単元の指導計画

- 1 単元名・学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・国語4
- 2 単元の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・国語4
- 3 単元の評価規準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・国語4
- 4 国語科として、全校研究テーマに迫るための仮説・・・・・・・・・・国語4
- 5 単元に寄せた教材化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・国語5
- 6 単元展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・国語6
- 7 資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・国語8

信州大学教育学部附属長野中学校 国語科

研究者 佐々木 清花 今井 悠太  
和田 康孝 戸塚 拓也



# I 本校全体の研究の概要

## 1 令和4年度「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」

### 目指す生徒の姿

**学びを拓いていく生徒**

### 全校研究テーマ

**学びの本質に迫る学習の在り方（2年次）**

## 2 「目指す生徒の姿」「全校研究テーマ」の設定理由及び捉え

学校教育目標「ともに学び 一人となる」の下、日々の教育活動に努める私たちは、令和2年度末、それまでの教育活動において「育っている生徒の姿」と「さらに育てたい生徒の姿」を洗い出し、令和3年度において、本校の「目指す生徒の姿」について検討した。以下はそこで出された意見の一部である。

- ・学ぶことがおもしろい、楽しい、もっと学びたいと願う生徒
- ・解決したことを基に、新たな問いをもつ生徒
- ・学習や人生において、各教科等の「見方・考え方」を、自在に働かせていく生徒
- ・自分の学びを客観的に捉えたり、友の考えを批判的に捉えたりするなど、学びを自覚することができる生徒

なお、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編の第1章総説1の(2)③では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進において、次のような生徒の姿が求められている。

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにする

私たちは、令和3年度において、「目指す生徒の姿」を検討した際に出された上記の姿と、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編において求められている生徒の姿が重なると考えた。そこで私たちは、目指す生徒の姿の具体を「各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」と捉え、本校が目指す生徒の姿を「学びを拓いていく生徒」と据えた。

次に、私たちは、「学びを拓いていく生徒」を具現するために令和2年度までの研究を基にして、全校研究テーマについて検討した。そこでは、各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことを「各教科等の本質」、各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくことを「学びの本質」と捉えることを職員間で共有した。そして、この二つの本質は、「学びを拓いていく生徒」の具体とした「各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」を迫るものであること、「各教科等の本質」を目指す中で「学びの本質」が生まれることの2点を確認した。そこで、私たちは、全校研究テーマを「学びの本質に迫る学習の在り方」と据え、その具現を図ることとした。

### 3 令和4年度 研究の全体構想

#### (1) 目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒
------------

#### (2) 全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方
----------------

#### (3) 研究の重点

<p><b>重点1 問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする</b>          単元や題材の学習問題の解決（達成）を目指して、問いと見通しをもちながら自らの考えを広げ深めていく活動を位置付ける（単元や題材）。思考・判断・表現をする場面で、着目すべき、対象や関係を明らかにしながら検討する活動を位置付ける（本時）。</p> <p><b>重点2 学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする</b>          ①「分かったことや分からなかったこと」「疑問に思うこと」「さらに生かせそうなこと」など、振り返りの視点を基に、単元や題材を振り返る場を位置付ける。          ②単元や題材の初めの姿と終末の姿を比較し、分かったことやできるようになったことと、その理由（学習過程）を振り返る場を位置付ける。          ③単元や題材を通して、学習したことを生かすことができるような課題に取り組んだり、課題に取り組んだ後に、単元や題材で学んだことを振り返ったりする場を位置付ける。</p>
--

#### (4) 各教科等で育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ

各教科等	各教科等で育成を目指す資質・能力	各教科等の研究テーマ
国語	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力	文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方
社会	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力を高める学習の在り方
数学	数学的に考える資質・能力	数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察したりする力を高める学習の在り方
理科	自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力	観察、実験の結果を分析して、解釈する力を高める学習の在り方
音楽	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力	音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方
美術	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力	主題を基に、発想し構想する力を高める学習の在り方
保健体育	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力	運動や健康についての課題を合理的に解決する力を高める学習の在り方
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力	(技術分野)社会や生活課題について多面的に検討し、最適な解決策を考える力を高める学習の在り方 (家庭分野)生活事象を多角的に捉え、よりよい生活を営むために工夫する力を高める学習の在り方
英語	簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力	事実や考え、気持ちなどを伝え合う力を高める学習の在り方
道徳	よりよく生きるための基盤となる道徳性	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むための学習の在り方
総合的な学習の時間	よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力	自ら課題を設定する力を高める学習の在り方
特別活動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して身に付ける資質・能力	学校生活をよりよくするための課題を解決する力を高める学習の在り方

## II 国語科の研究

### 1 国語科の研究テーマ

文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方

### 2 教科としての研究の重点1と研究の重点2の受け止め

「最も心惹かれる季節について考える 一枕草子・徒然草」(令和3年5月・2年)では、文章を読んで理解したことを知識や経験と結び付け、最も心惹かれる季節に対する自分の考えを広げたり深めたりする学習を構想した。そこでは、季節を題材とした二つの文章を比較(「枕草子第一段」と「徒然草第十九段」)し、そこから見えてきた、清少納言と兼好法師それぞれの季節や時間に対するものの見方や考え方の違いに基づいて、互いの考えを共有する展開を位置付けた。

「秋」が最も心惹かれる季節であると考えていたM生は、二つの文章の比較から、季節の中にあるよいものを端的に捉えている清少納言と、季節の移り変わりこそよいと捉えている兼好法師というように、それぞれのものの見方や考え方に違いがあることを理解した。その後、M生は、その理解に基づいて、友と互いの考えを共有することを通して、紅葉の美しさは瞬間的に生まれるものではなく、そこに至るまでの過程によって生まれるものであることに気付き、紅葉を中心とした木々の一年間の変化に心が惹かれることを、最も心惹かれる季節に対する自分の考えのまとめとした。このようなM生の姿は、「言葉による見方・考え方」を働かせ、文章を読んで理解したことを自身の知識や経験と結び付け、最も心惹かれる季節に対する自分の考えを広げたり深めたりした姿であり、文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高めた姿であると捉える。

単元の終末、教師は、清少納言や兼好法師の季節や時間に対するものの見方や考え方と自分のものの見方や考え方とのつながりについて振り返る場を位置付けた。そこで、M生は、単元の学習を行う中で至った、紅葉を中心とした一年間の変化に心が惹かれるというM生自身のものの見方や考え方が、兼好法師のそれと共通していることを記述した。このようなM生の姿は、自身のものの見方や考え方を高めた姿であり、学んだことの意味や価値を自覚することができた姿であると捉える。

このような学習の積み重ねによって、国語科の研究テーマ、さらには全校研究テーマを具現し、「学びを拓いていく生徒」に迫ることができると考え、本研究を構想する。

### 3 研究内容

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編第1章2(2)③では、「全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、『考えの形成』に関する指導事項を位置付けた」と示されている。これを

踏まえて、本校国語科は、令和2年度から、国語科の研究テーマを先述のように設定し、研究を行っている。なお、本研究を推進する上で、本校国語科が参考にしたのは、藤森・宮島・八木(「交流—広げる・深める・高める—」, 日本国語教育学会監修, 2015)による「広げる・深める・高める」思考である(図1)。

本校国語科は、この三つの思考を取り入れた単元を構想することによって、国語科の

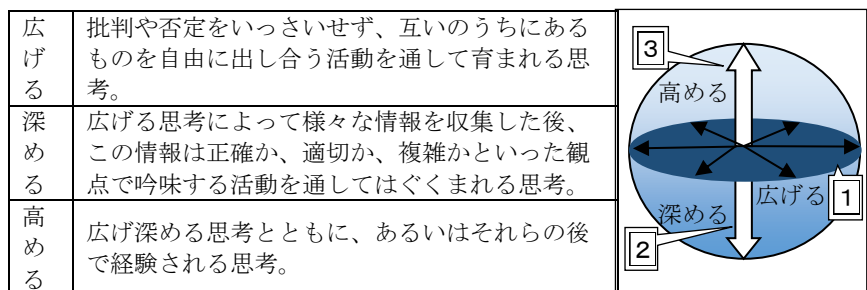


図1 「広げる・深める・高める」思考の定義とそのイメージ  
(「交流—広げる・深める・高める—」より)

研究テーマの具現に迫ることができると思う。具体としては、文章の初読段階においても自分の考えを学級全体で共有することによって、生徒は、互いの考えに差異があることに気づき、その理由を検討する必要感をもつ。そして、学級全体の考えの傾向や少数派に属する友がもつ考えの根拠や理由を求め、把握する(図1①)。さらに、そのような把握によって、文章の叙述に対する解釈や文章に対して考えをもつ上で生まれる立場や考え方に違いがあることに気づき、解釈や、立場や考え方の在り方を吟味する(図1②)。そして、そのような吟味を通して、生徒は、文章の叙述に対する解釈を明確にもったり、文章に対する考えをもつ上で生まれる立場や考え方の違いを整理したり、考えを形成すること自体への理解を深めたりする(図1③)という、三つの思考が生まれると考える。

以上のように、本校国語科は、「広げる・深める・高める」思考を取り入れた単元の構想をすることによって、「文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方」の具現に迫ることとする。

### Ⅲ 単元の指導計画

1 単元名・学年 「筆者の主張に対する共感度ー『不便』の価値を見つめ直す」・1年

2 単元の目標 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

(1) 知識及び技能【(2)ア】

意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等【C(1)ア・オ】

文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握したり、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしたりすることができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	思 「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 思 「読むこと」において、文章を読んだ②で理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。	態 単元の学習目標の達成に向けて、見通しをもって取り組み、自分の考えを形成しようとしている。

### 4 国語科として、全校研究テーマに迫るための仮説

(1) 研究の重点1に関わる仮説

- ・筆者の主張に対する学級全体の共感度を調査するために、三つの把握(「共感度の傾向の把握」・「少数意見の把握」から「文章の内容の把握」)を行い、それを基に互いの考えを共有する展開を位置付ける。このようにすることで、「言葉による見方・考え方」を働かせ、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(単元)
- ・筆者の主張内容の着目箇所を明確にしたり、場合を違えたりしながら、筆者の主張に

対する共感性について互いの考えを共有する活動を位置付ける。このようにすることで、主張内容の明確化や場合分けしたことに基づいて、自分の共感性やその理由と根拠を確かなものにする事ができる。(本時)

(2) 研究の重点2に関わる仮説

- ・単元の終末、「自分の共感性」を確かなものにしていく上で、大きく影響を与えた友の考えとその理由を振り返り、共有する場を位置付ける。このようにすることで、考えの形成場面における共有の大切さや「共感する」ということの本質的な意味などについて自覚することができる。

5 単元に寄せた教材化

(1) 筆者の主張に対する学級全体の共感性を調査するために、三つの把握(「共感性の傾向の把握」・「少数意見の把握」から「文章の内容の把握」)を行い、それを基に互いの考えを共有する展開を位置付ける

本単元においてねらいとする「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする」生徒の姿を、本校国語科は、教材『「不便」の価値を見つめ直す』における筆者の主張に対する自分の共感性を0～100%の数値にして示し、その根拠と理由を説明することができる姿と捉える。

以上の姿を生むために、教師は、文章を初読した生徒に対して、筆者の主張に対する共感性を問い、その集計結果を全体で共有する場を設ける。そして、共感性に差異があることに気づき、差異が生じた理由について検討する必要感をもった生徒に対し、教師は、筆者の主張に対する学級全体の共感性調査を行うことで、自分の考えを確かなものにし、それを本校が位置する地域の地元新聞「信濃毎日新聞」の投書コーナー「10代」に投書することを確認する(資料)。そして、単元の学習目標「筆者の主張に対する自分の共感性を確かなものにして、“10代”に投書しよう」を設定する。その後、生徒は、集計結果を基に、「共感性の傾向の把握」や「少数意見の把握」をすることで、「筆者が言う不便とはどのようなことか」、「筆者の主張とは何か」、「筆者の主張に対する共感性とは、主張自体への理解を指すか、それを実行するところまで含めるか」といった、調査を行っていく上で必要

表1 問題の検討を通して生徒が得ると予想されること

な、全体で検討すべき問題を見いだす(図1①)。そして、教材や友に、解決の活路を求めながら問題を検討し、「文章の内容の把握」をする(図1②)。

筆者の主張 (筆者の主張内容の着目箇所)	・「不便」という発想の有効性(便利さの否定ではない) ・「不便」を例とした、これまでの常識とは異なる別の視点を持ち、世界を多様に見ることの必要性
共感性の共有に必要な場合分け	・筆者の主張自体への理解度という形の共感性 ・筆者の主張を実行する上での実現度という形の共感性

第5時(本時)、生徒は、前時までの検討を通して得たことを基に(表1)、互いの考えを共有し、最終的な自分の考えを、根拠と理由を添えながらまとめる(図1②・③)。

以上の展開を位置付けることで、生徒は、「言葉による見方・考え方」を働かせ、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする事ができるだろう。

(2) 単元の終末、「自分の共感性」を確かなものにしていく上で、大きく影響を与えた友の考えとその理由を振り返り、共有する場を位置付ける

教師は、単元の終末、上記の視点で単元を振り返るように促し、全体で共有する場を位置付ける。このようにすることで、考えの形成場面における共有の大切さや、着目箇所を明確にしたり、場合を違えたりしながら「共感性」を共有することの必要性という、「共感する」ことの本質的な意味などについて自覚することができる。そして、これを、「高め」た思考を自覚する姿と捉える(図1③)。

6 単元展開 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする学習  
全7時間扱い 本時は第5時

段階	◆学習 ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」		評価の観点	時間
	教師の指導・支援	予想される生徒の反応		
導入	◆共感度の調査を通して、自分の考えを確かなものにしていくという単元の見通しをもつ。		●態 (観察・ワークシート)	1
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活における「便利」・「不便」は何があるかと問う。</li> <li>教材『「不便」の価値を見つめ直す』を紹介し、範読する。</li> <li>イのような反応から、筆者の主張に対して何%の共感ができるかと問い、集計する。その後、集計結果を提示する。</li> <li>ウのような反応から、互いの考えを共有する場を設ける。</li> <li>エのような反応から、単元の学習目標「筆者の主張に対する自分の共感度を確かなものにして、“10代”に投書しよう」を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 学校でクロームブックが使えるようになって、調べ学習などが便利になった。クロームブックの導入は大きい。</li> <li>イ 筆者の言うように、「不便」にも価値があるのかもしれない。例として挙がっている旅行については自分も共感できる。</li> <li>ウ 国語辞典を使っていた小学生の時は、調べたい語句とは異なる語句に目が留まって、興味深い意味を見付けたことがある。まさに「不便益」なので、共感度は100%だ。でも、共感できない友や迷っている友もいて、違いがありそうだ。</li> <li>エ Aさんは、「不便益」という考え方には共感できるが、自分は不便な生活はしたくないので共感度は50%だと話していた。確かに国語辞典を日常的に使用するのは難しい。実行できない場合は100%と言えないのだろうか。</li> <li>オ 投書のように自分の考えをまとめていくためには、全体の傾向を把握することが必要だ。そうすることで、私とAさんのように、何を基準にした共感度かのズレが無くなり、自分の考えに自信をもつことができるのではないか。</li> </ul>		
展開	◆説明的な文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する。		○思 ○知 ①(観察・ワークシート)	2 3 4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>オのような反応から、前時の集計結果を基に、全体の「共感度の傾向の把握」をする場を設ける。</li> <li>カのような反応から、「少数意見の把握」をする場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カ 共感度が70%~90%の人が多く、全体的には共感度が高いことが分かる。しかし、Bさんは共感度20%としている。共感度が低い人は少数派なので、ぜひ理由を聞いてみたい。</li> <li>キ Bさんは、技術の発展には便利さの追求心が欠かせないから、共感度は低いと話していた。これに対してCさんは、筆者は便利さの否定はしていないと発言していた。筆者の主張内容を皆でもう一度確認する必要があるのではないか。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>キのような反応から、調査を行っていく上で必要な、全体で検討すべき問題を洗い出すように促す。その後、「文章の内容の把握」をする場を設ける。</li> </ul> <p>※予想される問題例 「筆者の主張とは何か」 『「不便益」とは何か」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ク 筆者の主張は本論の最後にある『「不便」だからこそ得られるよさがあることを認識し、それを生かして新しいデザインを創り出そうというのが『「不便益」の考え方』という部分だ。</li> <li>ケ Dさんは、結論にある「これまでの常識とは異なる別の視点をもつことで、世界をもっと多様に見ることができるようになるはずだ」という部分が主張だと言っていた。主張は二つと見てよいのではないか。「不便益」という考え方自体と、別の視点をもって世界を多様に見る必要性だ。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>第3時同様に、「文章の内容の把握」をする場を設ける。</li> <li>次時に互いの共感度を再度共有する場を設けることを全体で確認する。その後、問題の一つとして挙がっていた「筆者の主張に対する共感度とは、主張自体への理解か、その実行性か」に触れ、次時の共有に向けたシヤスのようなアイデアを全体で確認しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コ 「不便益」とは、不便であっても発見があったり、体力や知力が向上したりするというよさがあることだ。「不便」との違いをはっきりさせて共有する必要がある。</li> <li>サ 筆者が挙げている例に自分たちの身近な例も加えて考えてみると、「不便益」という考え方の理解が深まった。</li> <li>シ 実行できるかできないかについては、筆者の主張に対する共感度の考え方の一つとしてあってよいと思う。でも、Cさんが「主張に対する理解と実行ができるかどうかは別の話だから、場合分けして共有する方がよい」と言っていたように、やはり二つの場合に分けて共有する方がよさそうだ。</li> <li>ス 場合分けして共有するのはもちろんだが、筆者の主張の何に対する共感なのかを皆に示しながら共有することができれば、話し合いも自分の考えも明確になりそうだ。</li> </ul>			



	<p>◆文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。</p> <p>本時のねらい：主張内容の明確化や場合分けしたことに基づいて、自分の共感度や根拠と理由を確かなものにする。</p> <p>展開</p> <p>・シヤスのような反応から、学習課題「筆者の主張内容の着目箇所を明確にしたり、場合分けをして考えたりしながら、互いの考えを共有しよう。」を据える。</p> <p>・ソの反応のように、今の生活を改めるといった視点での実行ではなく、自分でも気付かぬうちに実行していた「不便益」に価値を見いだす捉えもあることを共有する。</p> <p>・タの反応のように、既習教材と関連付けた考えをもっている生徒がいれば、その考えを全体に紹介し、主張内容の類似性を指摘する。</p> <p>・筆者の主張に対する最終的な共感度を再度数値にして示し、根拠と理由をまとめるように促す。</p> <p>セ Bさんは、「速くて簡単を目指して様々な技術が発展してきたから、やはり便利を追求することが大切だ。筆者の『不便益』という考え方には『共感度』が低い。しかし、『別の視点をもって世界を多様に見る目』は、これからの世界を生きていくために大切なことだ」と話していた。後者は、私の考えと同じだ。</p> <p>ソ Eさんは、「介護施設や幼稚園と同じように、学校の階段も、体を鍛える『不便益』の一つだ」と話していた。そう考えると、階段も意味があるし、「不便益」という考え方を知らず知らずのうちに実行している一つの事例として捉えてよいのではないかな。</p> <p>タ Fさんは、『だまし絵』と『不便益』という挙げる話題に違いはあるものの、『別の視点をもって世界を多様に見る目』の必要性を主張している点では『ちょっと立ち止まって』と同じだ」と話していた。確かにそうだ。そして、今後、生きていく上で必要な力なのだろう。</p> <p>チ Eさんが挙げた段階の事例から、「不便」だと感じるものが、実は「益」をもたらしていることに気付くことができた。このことから、「不便益」の実行性という場合においても共感度は変わらず高くあってよいと思うから、この場合の共感度は80%だ。筆者の主張に対する共感度という場合においては、やはり100%だ。便利さだけを追求するのではなく、不便の中の「益」を見付けることが人間に豊かさをもたらすと気付いた。つまり、便利さと不便さのバランスを見て、「不便さもあるが、こんな楽しみ方がある」という思考をすることが大切だ。これ自体が、世界を多様に見る目をもつということでもあるから、ここに関しては変わらず共感度が高い。だから、私の最終的な全体の共感度は、90%だ。</p> <p>・本時の調査結果を提示し、単元の学習目標の達成に向け、新聞の投書という形で自分の考えをまとめるように促す。</p> <p>ツ 筆者の「不便益」という考え方は、私たちの生活に豊かさをもたらすものだ。「不便だ」と感じるものが体力向上などの「益」をもたらしていることに気付き、徒歩での移動も階段の上り下りも意味のあるものに感じられるようになった。便利さの追求だけでなく、不便さとのバランスを楽しみながら、皆さんも新しい視点で様々なものを見てみませんか。</p>	<p>35分</p> <p>15分</p> <p>○思 ② (観察・ワークシート)</p> <p>5・6 (本時は第5時)</p>	
<p>終末</p>	<p>◆考えの形成場面における共有の大切さや「共感する」ということの本質的な意味などについて自覚する。</p> <p>・「自分の共感度」を確かなものにしていく上で、大きく影響を与えた友の考えとその理由を振り返り、共有する場を設ける。</p> <p>テ 「不便益」の実行性や「便利益」みたいなものとのバランスについて考えを深める上で、Eさんの段階の例が自分にとって大切だった。新たな実行ではなく、既に実行できている「不便益」という視点や、毎日使う階段を例にして考えると、その時々状況がイメージでき、共感度を決定しやすかった。</p> <p>ト Cさんの発言から、筆者の主張に対する理解と実行という二つの場合に分けて互いの考えを共有したのも、整理ができてよかったと思う。今回のように、「場合分け」したり、主張内容の「着目箇所」を明確にしたりして話し合うのが、一つのコツなのだ分かった。そして、そうやって考えることで、多面的な共感度をもつことができたと思う。</p>	<p>○態 (観察・ワークシート)</p>	<p>7</p>

「不利益」探してみては

10代

国語の時間に「不便」の価値について書かれた文章を学習しました。

私は、人は便利という道にしか進まないことが多くあると思うし、不便という道を進めば、それはそれで良いことが見つかる

と思いました。

また、インターネット上のアイデアとして「足こぎ車いす」というものがあり、それは良いものだと感じました。自分の足で前に進む努力と、進めた時の達成感はとても大切だと思いました。

以前、私が「不利益」を体験した時のお話です。学校からの帰り道、友達と歩いていた時、きれいな花やかわいい犬を見かけ、

さまざまな景色にいやされました。車だっただけに通り過ぎてしまう所をじっくり見られるのは、「不利益」だと思います。

日常生活で「不便だ」と感じることの裏に良いことが待っているかもしれません。みなさんもぜひ「不利益」を探してみてください。

長野市 岡田 彩希

(中学生・13)

2022年8月10日信濃毎日新聞

努力で改善 自分も体験

10代

国語の時間に「不便」の価値について書かれた文章を学習しました。

インターネット上の意見として、「成功には時間と努力が必要だ」というものがあり、私はそれに共感しました。去年まで放送委員会で行事ごとに行っていた活動を月ごとに行うようにしたり、毎朝の放送原稿を変え、約200日分の原稿を委員長と協力して作成したりしました。時間はかかって、ミスしたりしたことを改善するために努力してきたことで、とても共感すること

ができました。

また、インターネット上の意見として「普通の生活」というものがありました。コロナウイルスが確認されて2年半、マスクは苦しいし、大きい声で話せないし、今まで普通だったことができなくなってしまいました。それで、普通の生活に戻れるようにということにもとても共感しました。

私も、身近なものに「不利益」の考え方があてはまるか考えて生活してみたいと思いました。みなさんも、身近なものに「不利益」というものはありますか。あるとしたら、そのよさについて考えてみませんか。

長野市 松岡 拓夢

(中学生・14)

2022年8月18日信濃毎日新聞

## 郷音

### 読者と本紙と 中学生の心を捉える「不利益」

最近、本欄の「10代」に、「不利益」についての意見や感想が載っている。私も興味を湧いて、地元中学の教頭先生にお願いして文章を入手した。

それは、中1の教科書に載っている説明文の読解教材であった。「不利益」とは、システム工学を研究する筆者が生み出した造語だという。その意味は、便利との対比の中で、これまで見過ごされてきた不便の価値、つまり不便だからこそ得られる良きことだという。例えば、工場での生産方式でライン方式より、一人で全工程を担う方式の方が工夫の幅が広がり、達成感が高まるという。

この文章が中学生の心を捉えている理由は、内容への共感もつと云えば感動であると思う。現代の中学生は、便利が当たり前前の社会に生きている。彼らは、不利益という考え方にショックを受け、日常生活や生き方を振り返っているのだと思う。

私も最近、近くのスーパーや郵便局まで歩く体験をした。町内を歩くことで、家々の玄関を飾っている美しい夏の花たちに出会えた。中学生の皆さんも、毎日の登下校の際などに、不利益を体験していることと思う。

松本市 関 義弘  
(無職・86)

2022年8月9日信濃毎日新聞